

2024年4月21日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「すべての人に仕える者になりなさい」

聖書：マルコによる福音書9：30～37

イエスは「人に気づかれるのを好まなかった」（9：30）と聖書は記す。何故か？
「それは弟子たちに、「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。・・・」（9：31）とあり、イエス自身の苦しみ、緊張感のゆえであった。しかし、弟子たちはイエスの受難への苦しみ、緊張感など、まったく感じとれず、自分たちの得（とく）のみを考えていた。イエスは弟子たちに聞く。「（旅の）途中で何を議論していたのか」（9：33）と。しかし弟子たちは黙っていた。彼らは誰が一番偉いのかと議論し合っていたからである。

イエスは、弟子たちの無理解とあらぬ幻想を打ち砕くように、十二弟子を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」（9：35）と。そして一人の子どもの手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げたのである。ところでこの子はどういう子どもだったのか？ 実は、戦災孤児の一人ではなかったかという見方がある。当時のパレスチナの歴史的状況を思えば大いにうなずける。

イエスが子どもを抱き上げたことは、たいへん意味深い。子どもを抱き上げるという行為は、案外なれていないとスムーズに出来ないものである。日頃、子どもを抱っこしたことのない大人が、いきなり子どもを抱き上げることは以外に難しい。まして、当時軽視されがちな子どもを抱き上げることは、常日頃から子どもに目を注ぎ、気に留め、よく可愛がっていたということであろう。そのことは十分に想像が付く。イエスに抱かれたその子どもは、もしかすると初めて大人の人に抱っこされたかもしれない。そのことがどんなにその子にとってうれしいことであり、希望や勇気を得たであろうか。イエスの優しさ、温かさを思わされる。では、私たちはどうか？ 他人の子どもにイエスのような眼差しを向けているものでしょうか？ 大人の都合で子どもを排除していないか？ 私たちの社会、この国は、子どもを大切にしていると言えるだろうか？ 世界はどうか？

子どもを真ん中に立たせ、抱き上げるほどに、大切にする社会は、今なお程遠いと言わざるを得ない。止むことのない各国での戦争、紛争の中で、子どもの犠牲が後を絶たない。この世界は余りにも罪深い。

「いちばん先になりたい」大人たちの争いは、どんなに罪深い結果を生むことか。「子どもを抱き上げる」イエスのお姿を想いつつ、「すべての人に仕える者になりなさい」との意義を深めたい。（神谷）